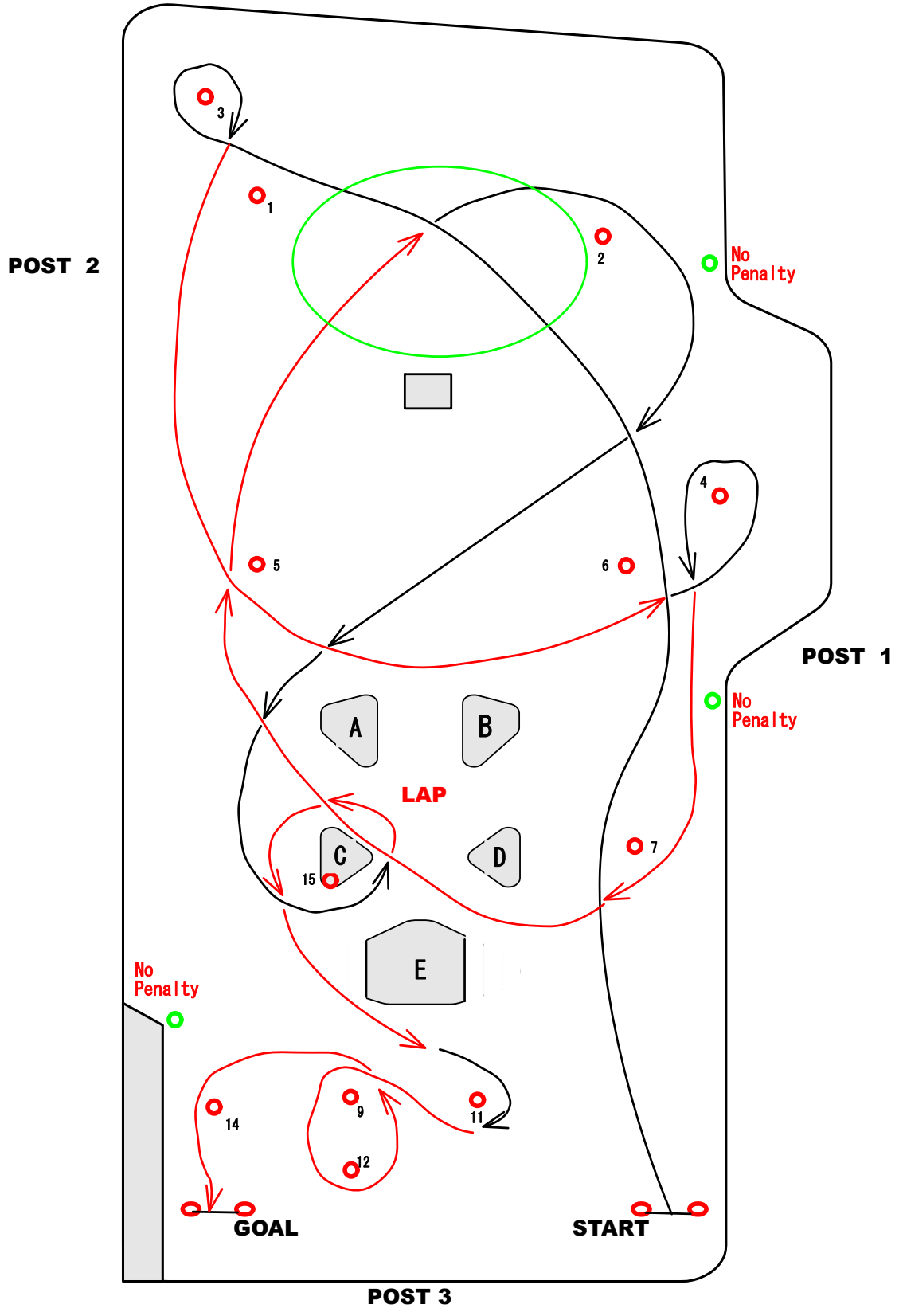


2021.06.20



## コース作成の意図

このコースは、雨天も想定して作っています。雨量に応じて、パイロンを内側に入れるなど、ゴールタイムや難易度が変わられるようになっていきます。パイロン **1** 番-**7** 番。

雨なのに危険なコースを作るとかよく言われるスタートから **3** 番までのラインですが、雨天時には、ミドリ色の円付近、スピンする人が居るとすればコースの真ん中でスピンするようにパイロンを設定するので危険ではない、激突してしまう様なことはないようにパイロンを置きます。逆にいうと参加者は、コース作成者のその意図を汲んで走るということになります。

コースの大半は、雨天からドライ路面に変わる時に先に渴き始める場所が使われています。最近では、コースを土手沿いに一周歩いて様子を見る人が殆ど居ませんが昔はよく見かけました。

線を赤に変えた部分は、ターンの後。先が長いのです。雨天も想定されたコースでターンの後が長いという事は、ターンの立ち上がりから次のターンまでの区間でタイム差が出易いということになるのでスタートラインに並んでいる時に、**3** 番の立ち上がりに注意することが先にあり、ミドリ円付近で **G** が少なくブレーキで無理をしないように考えるというのが攻略法です。赤線は、他にもあります。タイム差は付きやすくなります。

**15** 番パイロン、島の手前だけ置かれている理由というのもあります。

このコースに限りませんが、なぜサイドを引くのかというのも攻略法です。このコースなら、この角度なら、みんな引くだろうではなく、自分が引く理由。

この文章は、アドバイスではなく、コースを作る人が何を考えているかを書いているので、選手として走る場合は、コース作成者の意図を汲んで、読んで、アタックすれば、ミドリの円付近でスピンしなくなり、**3** 番に向かって突っ込み過ぎ無くなり、ゴールした時のタイムを短くするために、立ち上がりを重視した進入になるかもしれません。考えて走るとお金を掛けずにタイムが上がる可能性が高まるようにコースが作成されています。